

還暦・古希・喜寿そして
傘寿談議
文・写真 (株)地域サービス代表取締役
永井 英彰

剣山系、種の栽培で現金収入
お堂は何故細い柱でも保つのか

3月26日、京都府在住の森孝之氏(元伊藤忠商事、元大垣女子短大校長)が来県、徳島市川内町、レストラン「ひーこ」で農業研修会を開いた。森先生は3反の畑で野菜を栽培、自家用は全て賄っている。剣山系の縄文時代から続く循環型農業に惹かれてやって来た。そこで剣山系農業の復習から始めた。

①急傾斜地で等高線栽培をしている②青石が多く水を浄化した土壌が良い③断層破砕帯なので山頂から水が湧出し、高山の植生が揃っている④祭祀遺跡があり今でも信仰が残っている⑤等高線



森先生(中央の座っている人)を迎え農業研修



初参加の新居夫妻と林先生(右端)



種子を採るための栽培・カブラ(西谷)とキャベツ(淵名)

農業によって土壌流出を防いでいる⑥カヤや落ち葉を置くことで雑草を防ぎ微生物を増やしている⑦年中ハデを設け、干し物文化を残している⑧200年にわたり自家採取の種を保存している⑨350種の薬草を持つアトランダムに声が出た。

季節ごとに違つ風景

翌27日、世界農業遺産支援協議会の林博章先生、野田靖之先生等の案内で森先生、徳島市国府町新居建築研究所の新居照和バサントイ夫妻も参加して美馬市

穴吹町南へ出掛けた。まずは定番の初草―馬内―西山。ここは北面が中野集落、対岸は淵名、左方が猿飼であり、どの方向も景色が良い。次いで西谷、ここでは農業鴨平さん宅を訪問。菜の花が栽培されており、菜の花の雄と雌が別畝で植えられていた。種苗会社からの委託栽培で格好の現金収入になっているようだ。コエグロの横にビニールハウスがあり、ぐるりと回って中を除いたら万年青が栽培されていた。これも現金収入になる。横にはニラの採種跡があった。何度も訪れているが季節が違つと風景が全く



吹き抜けのお堂(半田町捨子)



床下の工夫

職員の自己評価などをスライド

違つことに気付いた。
お堂支える細い柱

道の駅貞光「ゆうゆう館」で半田そうめんを食べた後、午後はつるぎ町浦山へ。前方は宮内、白村、岡と集落があり、手前は平野、南遠方に家賀が見える。ゾーニングというか配置が素晴らしい。屋根の向きは風の当りを考えて作られている。浦山堂というお堂を見た時に、建築家の新居さんが「こんな細い柱で屋根を保たせているのはカッコいい」という。これまで何度もお堂を見ているが、そんな疑問を抱くことは無かった。新居さんの説明では地震の時に力が更けるように作られているという。その代り重たいものを支える鴨居が張られ、床下にも張を巻いている。床材には害虫に強い地元の木材を使っている。四方を解放したモニュメントが素晴らしいという。奥様のバサントイ

いさんは「インドの寺院にもお堂はあるが通常、寺院の入り口にある」との事だった。建築家の同行は初めてだったのだ、思わぬ事が判った。私たちはお堂の床下を覗き込み、新居さんの説明に納得した。異業種の人達に同行して貰えば新しい発見があることが確認できた。

城東高で支援協議会

3月17日、城東高で今年度2回目の学校支援協議会が開かれた。同校のこの会議は平成14年度からスタートしたが、同窓会やPTAも含めた大きな組織。平成16年には文科省のガイドラインで全国の高校に学校評価委員会を設けることとなったが、城東はそれに先駆けて設けていた。学校評価は人権教育、進路指導、学習指導、グローバル人材の育成等について生徒のアンケート結果や教職員

で詳しく説明した。それらの結果を見て、私達委員会も意見を述べて、評価をした。

SGHに取り組み

これとは別にSGH (Super Global High school) 事業について生徒グループから説明があった。SGH事業とは文科省が2014年度から始めたもので、全国で56校が指定されている。四国では城東高と松山東高だけ。文科省によるとこの事業は「高校等におけるグローバルリーダー育成に資する教育を通じて、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的教養を身に付け、もって将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成を図ること」を目的としている。城東高は構想名を「四国徳島発、人類の健康



城東高の取組を英語で説明



筆者がもらった感謝状



訪問に先がけ賀川豊彦記念館訪問



庭木の消毒



庭のモモの花にミツバチ

と環境に貢献するグローバルリーダーの在り方について」としている。

SGHには3つの特徴がある。①目指すべきグローバル人物像の設定②大学、企業、国際機関等と連携を図る③グローバルな社会課題やビジネス課題をテーマに、横断的、総合的な学習、探究的な学習を行う。英語力はキーワードの1つに過ぎない。尾崎好秋校長は「国際的に活躍する人物を目指すように理解されがちだが、私は問題点を探し自ら解決する能力を養うことでないかと理解している」と補足した。

女生徒達はマルナカ徳島店の協力を得て行っているフェアトレードのチョコレート販売について、英語で説明した。途上国のカカオ豆などについて、消費者にも利益があり、生産者にもメリットがあるシステムのようだ。若し、どこか

でフェアトレード商品を見つけたらぜひ買ってみよう。

この学校支援協議会の発足、今回抜ける事となったので、尾崎校長から感謝状を頂いた。学校のますますの発展をお祈りするとともに、お礼を申し上げる。

賀川豊彦の像慰霊へ

吉野川市の女流書家・吉野美苑は昨年4月ワシントンの桜祭りでの書のパフォーマンスをやつて大盛況を収めた。今年も4月16日にワシントンでやる事が決まった。それなら、前日にワシントン大聖堂にある賀川豊彦の像の前で書を奉納して慰霊できないかと画策した結果、大聖堂から許可が下りた。そこで元

鴨島町長・野口順氏を委員長とするワシントンプロジェクトを作り、吉野川市と鳴門市を訪問し協力を要請、両

市長から大聖堂宛の親書を預かった。短時間だったが、徳島から8名が参加することになった。

松茂町の恵教会・南沢満雄牧師からは賀川豊彦関連の著書が届けられた。中東が混迷を極め、EUは難民流入を阻もうとしているし、移民で成り立ったはずのアメリカまで、阻止の壁を築くという大統領候補が支持を伸ばしている。賀川豊彦の主張する「世界平和・人類友愛・相互扶助」の思想が、私たちをワシントンへ招いたのかも知れない。

筆者はワシントンの後はニューヨークレンタカーで移動し、5泊を予定している。本場のジャズを聴き、古都ボストンを訪ねる位の予定でフリーハンドである。最近、アメリカでは野菜の干し物文化が発達していると聞いたので専門店を回りたい。剣山系の干し物と類似性があると推測している。詳しくは来月号で報告する。

貸金の半分返る

長年親交のあった経営者が店舗を閉め「1.04カラットのダイヤを百万円で買って」と頼まれた。何か困ったことがあれば相談に乗る」と約束していたが、これには困った。そこで「ダイヤには興味が無く、私には猫に小判である。百万円は貸す」ことにした。最近になって「とりあえず50万円できた」として返してくれた。妻にも内緒であり、ダイヤは預かったままだが、これはワシントン行の費用に充てられる。残りはどうなるかわからないが、私が海外旅行に誘ったので、相手は借金を思いついたのかも知れない。今考えると「手元にこれだけしか無い」といつて10万円渡せば、それが一番スマートだった。

10年振り庭木の消毒

そろそろイラガなど害虫が発生する季節となったので、友人に庭木全てを消毒してもらった。桃が開花しミツバチが来ている。しかし、先の冷害がひどく中国・大理から持ち帰った藍の木・板藍根は数本を残して枯れてしまった。季節を迎える薔薇は背丈ほどに順調な生育振りである。母は実が付き赤くなりかけている。